

「土壌ゼミ」の活動紹介

～研究室を越えた学生・若手研究者 の交流の場～

遠藤 敏史¹

常田 岳志^{2,3}

1: 東大院農

2: JSPS PD

3: 農環研

土壌ゼミのはじまり

2002年に前幹事の常田により立ち上げ

1. 研究室に入ったものの、日本の大学にはSoil Scienceという枠組みがなく土壌科学について広く学ぶにくい
2. Practicalな側面に興味があったので、そちらの人とのつながりを持ちたかった
3. そそのかす人がいた
4. ちょっと探すと、志を同じくする人がいた

土壌に関わる研究をしている人たちが、分野や研究室の垣根を越えて交流・勉強することを目的にゼミが立ち上がった

土壌ゼミの参加者①

所属

関東近県の大学の大学院生が中心
(東大、農工大、千葉大、明治大 etc.)

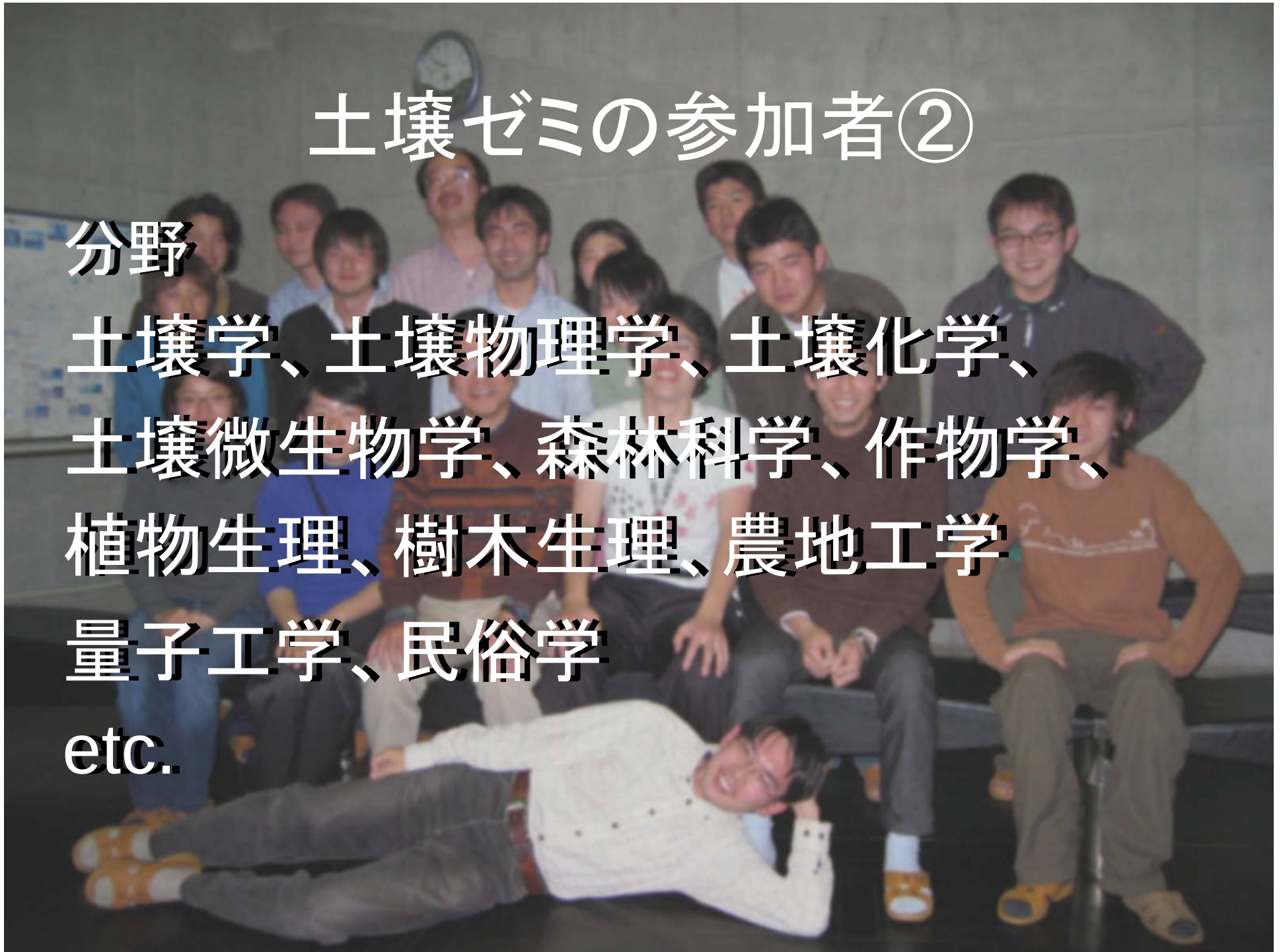
実際にゼミに参加することは少ないが、メー
リングリスト(ML)に参加している方もいる
(名大、京大、鳥取大、北大、農環研 etc.)

ML参加者: 2007/8/24現在 68名

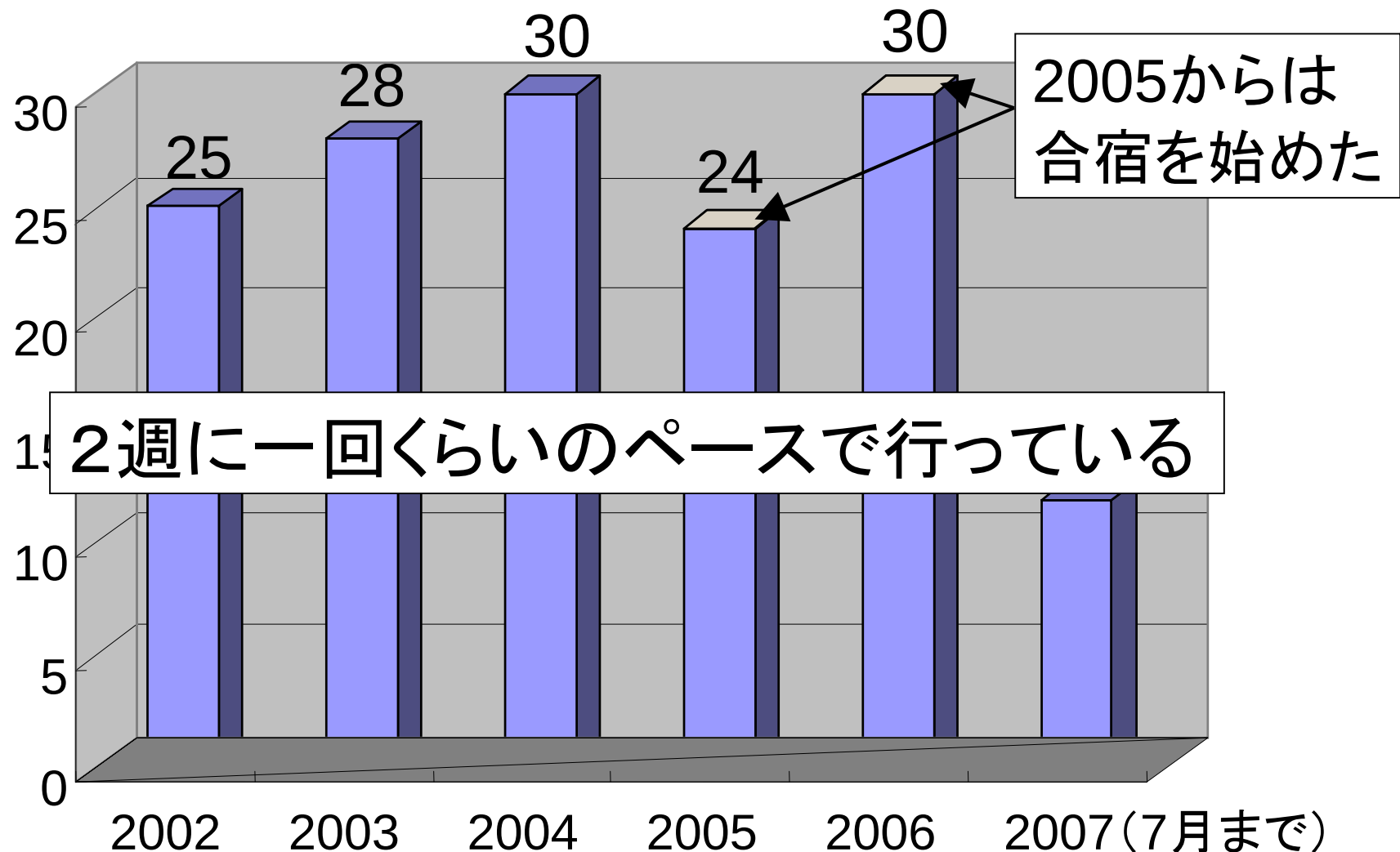
土壌ゼミの参加者②

分野

土壌学、土壌物理学、土壌化学、
土壌微生物学、森林科学、作物学、
植物生理、樹木生理、農地工学
量子工学、民俗学
etc.

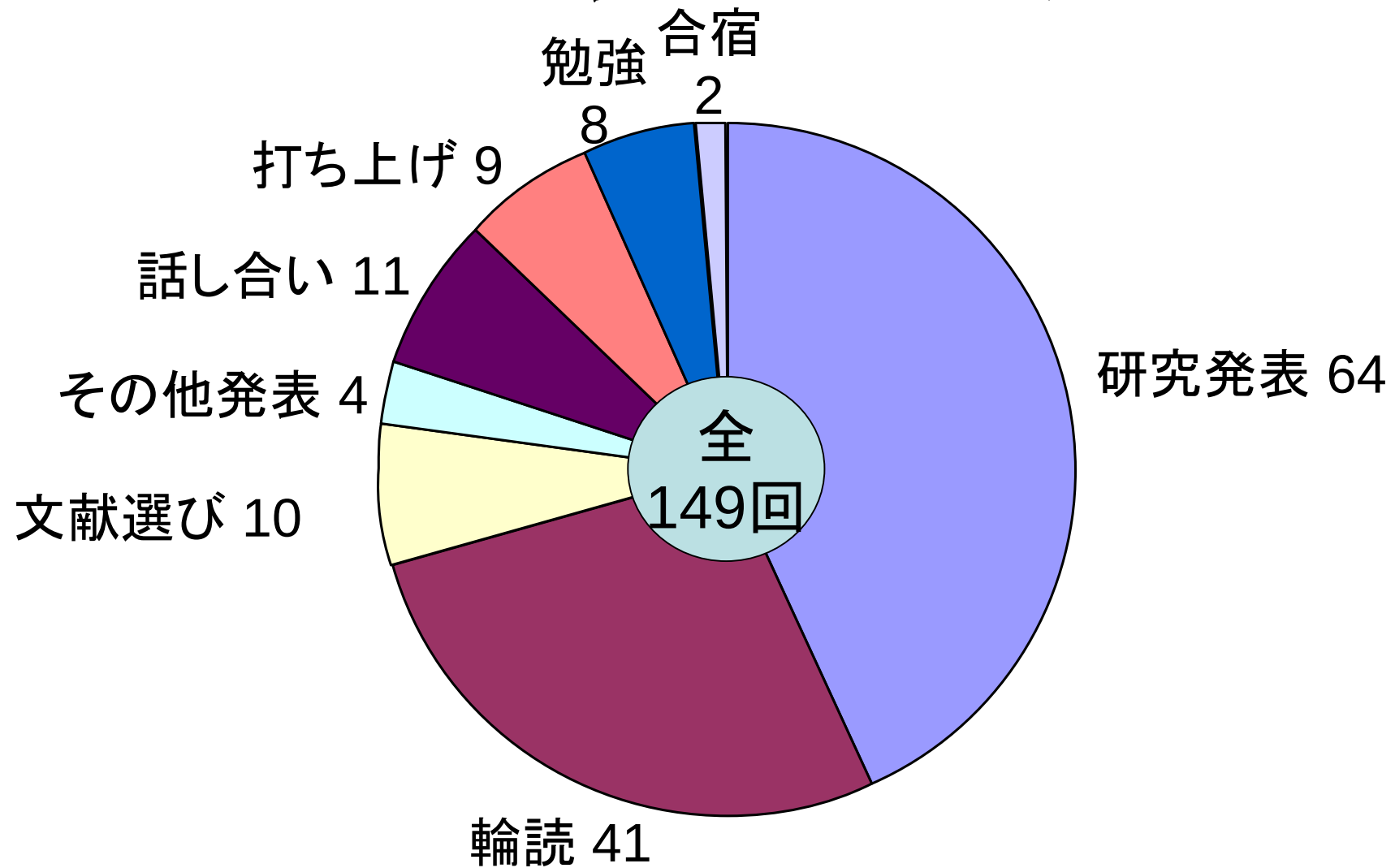


各年度のゼミ活動回数(現在まで計149回)



高頻度で開催 → 毎回のゼミの敷居を下げる
平日に開催 ⇨ 他の勉強会などとの重複を避ける

これまでの土壌ゼミの活動の内訳



研究発表・輪読が中心

土壌ゼミの活動①

定期的な勉強会

研究発表（このゼミの基本線）

- 様々な分野の研究動向について知る機会
- プレゼンテーションの練習

- 具体的には・・・

土壌からの亜酸化窒素発生

湿原からのメタン発生

撥水性土壌

根の伸長

溶質移動

鉄の溶脱

熱水分移動

微生物のクロッキング

etc....

土壌ゼミの活動①

定期的な勉強会

論文・教科書輪読（発表する方のいない時に行う）

- いろいろな知見を増やせる
- 普段読まない（読めない）論文に触れられる

↑ 読みたい論文を各自持ちよって、そこから選ぶ

• 具体的には・・

土壌科学や環境系のJournalの論文

他にも、

論文：『Soils-The final frontier』（Science Vol 304, Issue 5677）

教科書：『土と水と植物の環境』（駒村ら共著、理工図書）

ちょっと変わったものでは

『nature OUTLOOK Japan』（Nature 429. 216-221. 2004）

定期的な勉強会の問題点

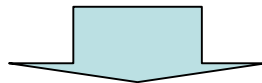
定期的な勉強会は

基本的に

- 東京で開催
- 平日に開催

時間的、地理的に参加できない人がいる

そこで



2005年から合宿を行うことにした

土壌ゼミの活動②

ゼミ合宿

- 時期：2005, 2006年の12月に開催
- 場所：東大検見川セミナーハウス
- 参加者：20名程度
- 内容：
 1. 研究発表
 2. ワークショップ（共同作業）その他、
 3. 座談会、運動など

2006年の合宿のパンフレット→



合宿の風景（研究発表）



合宿の風景（研究発表）

2005年度合宿の発表例（所属は当時のもの）

農工大院

「炭化物の農地還元から亜酸化窒素発生を考える」

鳥取大院

「炭化処理による植物性廃棄物の資源化」
～植物炭化物の土壌改良資材としての可能性～

名大院

「森林土壌の N_2O ・ NO 放出速度と植生・土壌因子との関係」

東大院

「乾燥ストレス条件下での作物の根系分布に関する形態学的解析」

合宿の風景（共同作業①）

目的：土壌科学を俯瞰する研究マップを作り、
各人の研究の位置づけを知る

対象：

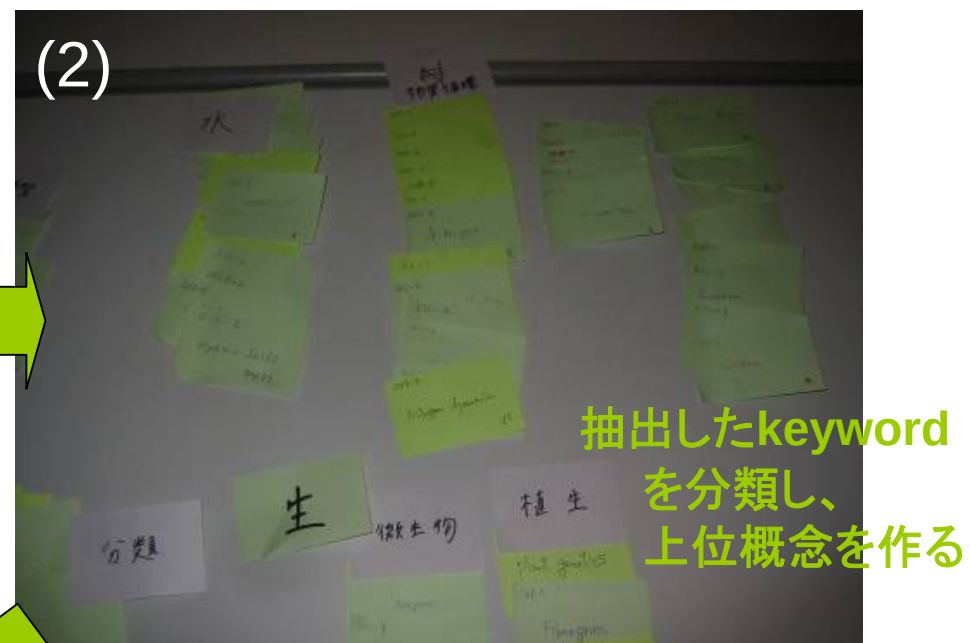
（2005年）日本土壌肥料学会（土壌関係のみ）、
アメリカ土壌科学会、ユーロソイル の学会要旨

（2006年）論文データベースを用いて得た、1970年から
10年ごとの“Soil”というキーワードの入った論文タイトル
（各年代500個程度）

分析手法：KJ法をアレンジしたもの

川喜田二郎氏考案の発想法

合宿の風景(共同作業②)

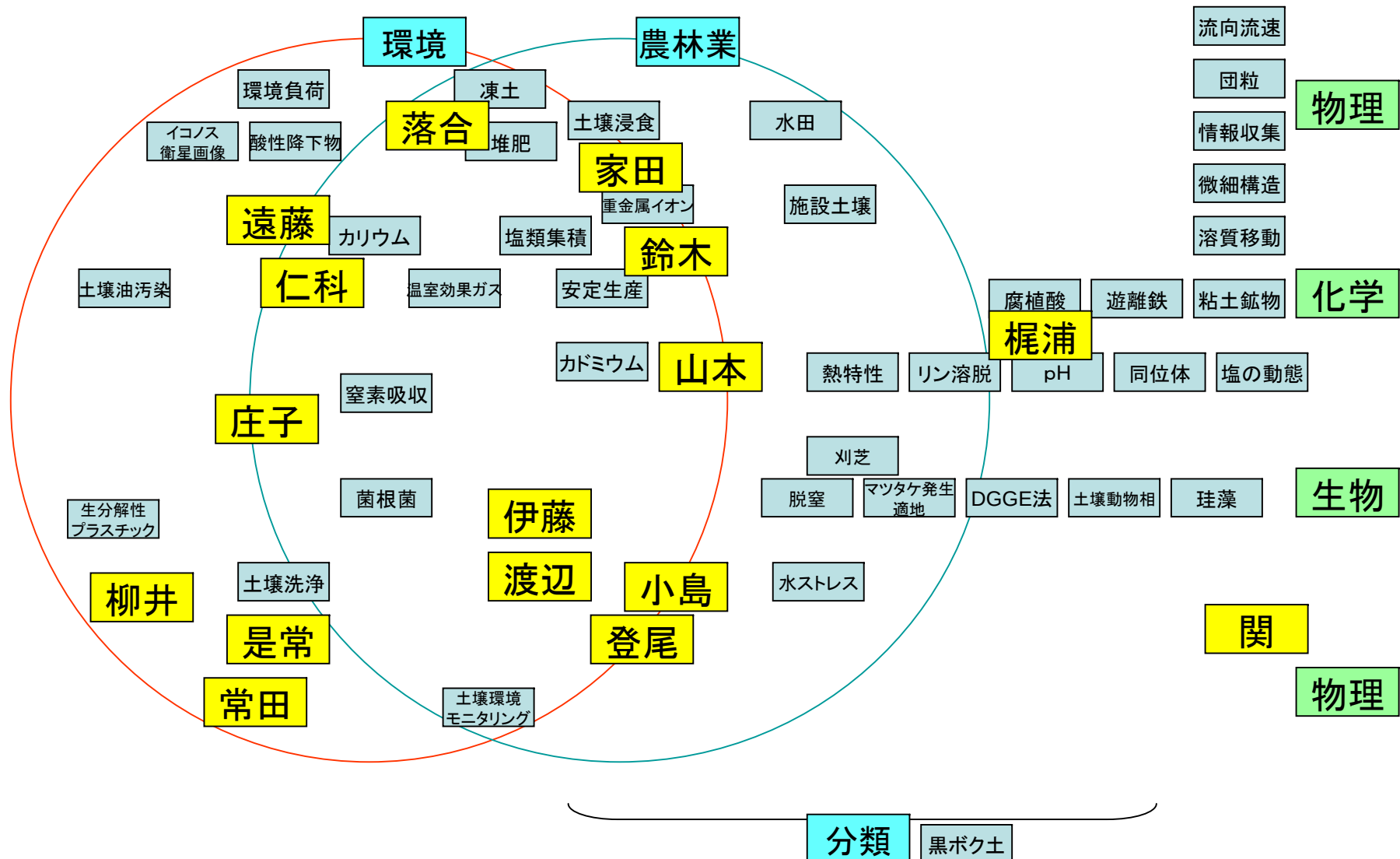


合宿で作成したものの一例

(2005年土壌肥料学会要旨)

応用

基礎



合宿の風景(その他)



座談会

- ポスドク問題
- 女性研究者の生き方
- 日本の研究室の問題点

など堅い話題も話し合った

勉強だけでなく
体育館を借りてバドミントン
汗を流して交流を深めた



自主ゼミの良い点と課題①

(土壌ゼミを例として)

良い点:

- いろいろな大学・研究室の人間がいる



- いろんな考え方、やりかたを見聞きできる
- 自分の研究を他分野の人にわかりやすく伝えるトレーニングができる
- 同世代の研究者・学生の活動を知ることは非常に刺激的
- 自分もやるぞというモチベーションの元になる
- ・現在の研究室中心の大学の研究体制を外から見られる
- ・研究室以外の拠り所

自主ゼミの良い点と課題②

(土壌ゼミを例として)

課題:

内容面:

- 議論が発散しがち

管理運営:

- ひきつぎ ← 学生は入れ替わる
↓
- 意欲的に参加してくれる学生の確保
- 適切な開催日程・内容調整

自主ゼミは課題を補って余りある
やる価値のあるもの

謝辞

土壌ゼミに参加してくださっている方々なしでは
このゼミは続いてきませんでした。

感謝を申し上げます。

と同時に、

これからもよろしくお願いします。

最後に

- 土壌ゼミはホームページを持っています

アドレスは<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/chisui/tutinoko/>です
(要旨集にもものっています)

今までのゼミの記録や予定、
どんなところから参加者がいるか
などを載せています

興味をもたれた方は是非ホームページをご覧ください

皆さんの参加をお待ちしています